

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
関西学研医療福祉学院		平成16年3月26日		学院長 井坂 恵一		〒 631-0805 (住所) 奈良市右京1-1-5 (電話) 0742-72-0600			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人 青丹学園		平成10年4月1日		理事長 岡田 憲太郎		〒 631-0805 (住所) 奈良県奈良市右京1丁目1番5 (電話) 0742-72-0600			
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度				
医療	医療専門課程	理学療法学科	平成19(2007)年度	-	平成26(2014)年度				
学科の目的	業界が必要とする人材を、人間性を培うとともに、医療・福祉等に関する専門的知識及び技術を修得させ、広く社会に貢献できる理学療法士を養成する。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	業界が必要とする人材を、人間性を培うとともに、企業と連携して医療・福祉等に関する専門的知識及び技術を修得させ、広く社会に貢献できる理学療法士を養成する。								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位数、単位いずれかに記入		3,285 単位数時間	1,995 単位数時間	450 単位数時間	840 単位数時間	0 単位数時間	30 単位数時間
				単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)					
120人	89人	0人		0%					
就職等の状況	■卒業生数(C)		24人						
	■就職希望者数(D)		22人						
	■就職者数(E)		22人						
	■地元就職者数(F)		12人						
	■就職率(E/D)		100%						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		55%						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		96%						
	■進学者数		0人						
	■その他								
	(令和5年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生)		病院、介護老人保健施設							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 一般社団法人 リハビリテーション教育評価機構 受審年月: 44651 評価結果を掲載したホームページURL: https://www.seitan.ac.jp/about/information/								
当該学科のホームページURL	https://www.seitan.ac.jp/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位数による算定)								
	総授業時数		840 単位数時間						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		840 単位数時間							
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位数時間							
うち必修授業時数		840 単位数時間							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		840 単位数時間							
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位数時間							
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位数時間							
(B: 単位数による算定)									
総授業時数		21 単位							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		21 単位							
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位							
うち必修授業時数		21 単位							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		21 単位							
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位							
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位							
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		6人						
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		5人						
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		人						
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		2人						
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		人						
	計		人						
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		6人							

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会等において、連携企業・業界の方々の意見・動向・要望等を取り入れ、実践力のある人材を養成すべく、授業内容の見直しや授業方法の改善・工夫等を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

外部委員と協同して、シラバス・時間割に関することや、実習の実施計画の協議・学生の学修評価の改善等について改善・提言を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
新田 真一	関西学研医療福祉学院 事務長	令和6年4月1日～令和8年3月31日	—
浅田 繁雄	関西学研医療福祉学院 渉外課次長	令和6年4月1日～令和8年3月31日	—
田守 康彦	関西学研医療福祉学院 理学療法学科長	令和6年4月1日～令和8年3月31日	—
岡田 哲朗	医療法人社団岡田会(歯科医師)	令和6年4月1日～令和8年3月31日	①
佐守 友博	日本臨床検査医学会	令和6年4月1日～令和8年3月31日	②
山中 善詞	医療法人社団岡田会 理学療法士	令和6年4月1日～令和8年3月31日	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(11月、5月)

(開催日時(実績))

第21回 令和5年11月14日 13:30～14:30

第22回 令和6年 5月1日 15:30～17:00

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

カリキュラムが適切に配置及び運用できているか定期的にチェックを行う。講義毎の学生からのアンケート内容を講義に反映する。国家試験レベルの内容と臨床向けの内容の整理を行い学生が適切な理解ができるよう検討調整する。小テストや模擬試験等の活用により学力向上に努め、合格率100%を目指す。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

連携する企業を検討し、業界の方々の意見・動向・要望等を取り入れ、実践力のある人材を養成すべく、授業内容の見直しや授業方法の改善・工夫等を行う。また講義等の調整も行い、学生に選択肢の幅を広げる機会を提供する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

- ① 実習目標が達成できるよう実習時期・期間の調整計画を立てる。
- ② 実習において指導者と密に連絡を取り、学生にとって効果的な実習を展開する。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床見学実習Ⅰ	①見学実習: 病院・介護老人保健施設・特別養護老人ホームなど、施設における院内・施設作業を主に見学する実習。②	社会医療法人平成記念会 平成記念
臨床見学実習Ⅱ	①見学実習: 病院・介護老人保健施設・特別養護老人ホームなど、施設における院内・施設作業を主に見学する実習。②	社会医療法人平成記念会 平成記念
臨床評価実習	理学療法士の指導の下に、対象者に対して学内で学んだ基本的な検査・測定技術を活かし、応用的な技術の体験及び検査結果の意味、解釈を行う。	医療法人仁誠会 奈良セントラル病
臨床総合実習Ⅰ	理学療法士の指導の下に、臨床の場で対象者に対して評価、分析、治療および練習を行い、実践的な理学療法を体験する。	医療法人社団岡田会 山の辺病院
臨床総合実習Ⅱ	理学療法士の指導の下に、臨床の場で対象者に対して評価、分析、治療および練習を行い、実践的な理学療法を体験する。	医療法人社団岡田会 山の辺病院

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校の研修にかかる諸規定の中の「他所への臨床および講義講演等の規定」で教員に対し以下の項目にて明記し、また、専門分野に関する研修会には参加するよう指導している。

(1) 他所への臨床は情報収集ならびに本校における学生教育に活かすことを目的とする。

また、他所への講義講演は本人の資質向上となることを目的とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第32回奈良県理学療法士学会	連携企業等:	奈良県理学療法士協会
期間:	45137	対象:	理学療法士
内容	テーマ「どんな取り組みをしていますか?他の施設が見逃せない」		
研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		
研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		
② 指導力の修得・向上のための研修等			
研修名:	第36回教育研究大会・教員研修会	連携企業等:	全国リハビリテーション学校協議会
期間:	令和5年8月25日(金)～8月26日(土)	対象:	養成校専任教員
内容	テーマ「リハビリテーション関連職種教育のパラダイムシフト」		
研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		
研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第33回奈良県理学療法士学会	連携企業等:	奈良県理学療法士協会
期間:	令和6年7月28日(日)	対象:	埋字療法学科専任教員
内容	挑戦する理学療法: やさしさを力に未来を拓く		

研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		

研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「第37回教育研究大会・教員研修会」	連携企業等:	全国リハビリテーション学校協議会
期間:	令和6年8月30日(金)～8月31日(土)	対象:	埋字療法学科専任教員
内容	ナラティブと最先端医療教育の融合		

研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		

研修名:	0	連携企業等:	0
期間:	0	対象:	0
内容	0		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

教育・運営活動の状況について、自己評価等を行い教育・学校運営の改善を図ることを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・人材育成・学校の特色・学校の将来像
(2) 学校運営	運営方針・事業計画・運営組織の効率化。人事や賃金制度・意思決定
(3) 教育活動	教育目標、育成人材像、業界ニーズとの適合性、到達レベルの設定、
(4) 学修成果	就職率・資格取得率の向上、退学率の低減、卒業生・在校生の活躍評
(5) 学生支援	就職支援体制、学生相談体制、学生への経済的支援体制、学生の健
(6) 教育環境	施設・設備の整備、学外実習・インターンシップ、海外研修等の教育体
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動の適正化、教育活動の正確な告知、入学選考の適性が
(8) 財務	中長期的な財務基盤の安定化、予算・収支計画の妥当性、会計監査
(9) 法令等の遵守	法令・設置基準の遵守と適正な運営、個人情報保護の保護対策、自己点
(10) 社会貢献・地域貢献	教育資源や施設を利用した社会貢献、学生のボランティア活動の奨
(11) 国際交流	グローバル人材の育成に向けた国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価による学校運営や教育体制に関する指摘、問題点については、教職員会議により問題点の共有と改善策を検討し改善に努めている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
岡田 哲朗	医療法人社団岡田会(歯科医師)	令和6年4月1日～令和8年3月31日	職能団体
福田 邦彦	保護者代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日	保護者
上田 健志	卒業生代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日	卒業生
安井 誠	地域代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日	地域代表
#REF!	#REF!	#REF!	#REF!
#REF!	#REF!	#REF!	#REF!
#REF!	#REF!	#REF!	#REF!
#REF!	#REF!	#REF!	#REF!
#REF!	#REF!	#REF!	#REF!
#REF!	#REF!	#REF!	#REF!
#REF!	#REF!	#REF!	#REF!
#REF!	#REF!	#REF!	#REF!
#REF!	#REF!	#REF!	#REF!
#REF!	#REF!	#REF!	#REF!
#REF!	#REF!	#REF!	#REF!

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.seitan.ac.jp/>

公表時期: 6月～7月に

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校が保有する情報の公開等に関し必要な事項を定め、情報を積極的に公開し、教育活動の改善や業界からの信頼の獲得を得ることを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の沿革と教育目標
(2) 各学科等の教育	教育スケジュール、実習マニュアル
(3) 教職員	選任教員数報告、平成28年度研修報告
(4) キャリア教育・実践的職業教育	入学前授業のプログラム、卒業後の研究指導
(5) 様々な教育活動・教育環境	教育システム、設備紹介、就職指導
(6) 学生の生活支援	提携不動産業者との要望すり合わせ
(7) 学生納付金・修学支援	奨学金制度、学費分割納入相談
(8) 学校の財務	関西学研医療福祉学院のホームページ
(9) 学校評価	自己評価報告書、学校関係者評価報告書、第三者評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.seitan.ac.jp/about/information/>

公表時期: 6月～7月に

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所			企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実	校内	校外	専任		兼任
1	○			心理学	人間理解の基礎知識を得る。性質・欲求等の心理的欲求を分析できる能力を学ぶ。	1・前	15	1	○			○		○	
2	○			日本語表現法	基本的な日本語表現について学ぶ。さらに論文や症例報告書などに応用することを学ぶ。	1・前	15	1	○			○		○	
3	○			倫理学	人間として生命の尊厳、守るべき道を学び、医療人としての倫理観を学ぶ。	1・前	15	1	○			○		○	
4	○			医学英語	洋書論文などを通して、臨床に必要な医学用語を学ぶ。	1・後	30	2	○			○		○	
5	○			社会学	人間の社会的共同生活の構造や機能について学ぶ。人間関係を基に分析し現実の諸相と向き合うことを学ぶ。	1・前	15	1	○			○		○	
6	○			教育学	教育について、教育制度をはじめとした基礎的な知識を学ぶ。	1・前	15	1	○			○		○	
7	○			人間関係論	医療現場のみでなく、人間関係の基礎となるコミュニケーション能力を学ぶ。	1・前	15	1	○			○		○	
8	○			物理学	力学を中心とした物理学の基礎や、生体と物理学の関りについて学ぶ。	1・前	15	1	○			○	○		
9	○			生物学	生物の生命現象、生命維持に必要な生体の働きや生命のメカニズムを学ぶ。	1・前	30	2	○		△	○		○	
10	○			情報処理学	基礎的なパソコン操作と統計処理、理学療法に必要なデータ編集・構成能力を学ぶ。	1・前	15	1	△		○	○		○	
11	○			基礎統計学	基礎的な統計処理法、検討方法を学ぶ	1・後	15	1	○		△	○		○	
12	○			レクリエーション実技Ⅰ	スポーツを通じて心身の健康を保つ。またレクリエーション活動の方法を学ぶ。	1・前	30	1	△		○	○		○	
13	○			解剖学Ⅰ-1	系統解剖学における骨格系、筋系を学ぶ。	1・前	45	3	○			○	○		
14	○			解剖学Ⅰ-2		1・後	45	3	○			○	○		
15	○			解剖学Ⅱ	系統解剖学における循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系を学ぶ。	1・前	60	4	○			○		○	
16	○			解剖学Ⅲ	系統解剖学における神経系、感覚器系を学ぶ。	1・後	60	4	○			○		○	
17	○			体表解剖学Ⅰ	体表解剖学を理解し、筋、骨、血管などの触診技術を学ぶ。	1・前	15	1	△		○	○	○		
18	○			体表解剖学Ⅱ		1・後	15	1	△		○	○	○		
19	○			生理学Ⅰ	身体内部における植物系機能、動物系機能を学ぶ。(生理学実習含む)	1・前	60	4	○		△	○		○	
20	○			生理学Ⅱ		1・後	60	4	○		△	○		○	
21	○			基礎運動学Ⅰ	解剖学・生理学・物理学を基礎に生体力学、関節運動について学ぶ。	1・前	45	3	○			○	○		
22	○			基礎運動学Ⅱ		1・後	45	3	○			○	○		
23	○			人間発達学	正常な人間の発達過程、身体面、精神面、社会面を学ぶ。	1・後	15	1	○			○		○	
24	○			病理学概論	病気の原因と成り立ちを学ぶ。	1・後	30	2	○			○		○	
25	○			臨床心理学	人と専門的に接する技能を身につけ、心理学的な問題点の把握と援助法を学ぶ。	1・後	30	2	○			○		○	
26	○			臨床医学	臨床医学にたずさわるために必要な基礎知識、救急医療、画像診断などを全般的に学ぶ。	1・後	30	2	○			○		○	
27	○			内科学	内科の症候、病態生理への理解を深め、診断及び最新の治療法を学ぶ。	2・前	30	2	○			○		○	

58	○	運動療法学	関節可動域改善、筋力増強、持久性改善、協調性改善などの目的に合う運動療法の基礎を学ぶ。	2・前	60	2	○	△	○	○										
59	○	理学療法治療学Ⅰ	整形外科疾患（運動器疾患およびスポーツ障害）の理解と、理学療法の評価・治療手技について学ぶ。	2・後	60	4	○	△	○											
60	○	理学療法治療学Ⅱ	呼吸障害の理解と、理学療法の評価・治療手技について学ぶ。	2・前	30	2	○	△	○											
61	○	理学療法治療学Ⅲ	循環・代謝障害の障害理解と、理学療法の評価・治療手技について学ぶ。	2・後	30	2	○	△	○											
62	○	理学療法治療学Ⅳ	脳血管障害の理解と、理学療法の評価・治療手技について学ぶ。	2・後	60	2	○	△	○											
63	○	理学療法治療学Ⅴ	難病・神経疾患の理解と、理学療法の評価・治療手技について学ぶ。	2・後	30	2	○	△	○											
64	○	理学療法治療学Ⅵ	小児疾患の理解と、理学療法の評価・治療手技について学ぶ。	2・後	30	2	○	△	○											
65	○	理学療法総合演習Ⅰ	臨床実習に向けて臨床的思考過程や動作観察の文章表現、文章作成及び実技を学ぶ。	2・前	60	2	△	○		○	○									
66	○	理学療法総合演習Ⅱ		2・後	60	2	△	○		○	○									
67	○	理学療法総合演習Ⅲ（通年）	臨床総合実習へ臨むにあたり、知識の整理および技術の確認・向上をはかる。また、さらに知識向上のために、集中講義、模擬試験などを行ない、適宜結果を分析検証し、授業内容に対する勉強法を学ぶ。	3	##	12	△	○		○	○									
68	○	地域理学療法学	現在の保健・医療・福祉制度について理解し、在宅支援するための基礎知識を学ぶ。	2・前	15	1	○			○	○									
69	○	地域リハビリテーション	地域リハビリテーションの概念と、その方法、業務について学ぶ。	2・前	15	1	○			○	○									
70	○	生活環境学Ⅰ	障害と住環境、福祉機器、介助法の関わりと実習を学ぶ。	1・後	15	1	○			○	○									
71	○	生活環境学Ⅱ		2・前	15	1	○			○	○									
72	○	臨床見学実習Ⅰ	理学療法士の指導の下に、見学を通して、医療・福祉・地域の中での理学療法業務を観察し、理学療法士としての必要な資質と能力を学ぶ。	1・後	40	1				○	○	○	○							
73	○	臨床見学実習Ⅱ		2・前	40	1				○	○	○	○							
74	○	臨床評価実習	理学療法士の指導の下に、学内で学んだ基本的な検査・測定技術を活かし、応用的な技術および検査結果の意味、解釈を学ぶ。	2・後	##	3				○	○	○	○							
75	○	臨床総合実習Ⅰ	理学療法士の指導の下に、臨床の場で、評価、分析、治療および練習を行い、実践的な理学療法を学ぶ。	3・前	##	8				○	○	○	○							
76	○	臨床総合実習Ⅱ		3・後	##	8				○	○	○	○							
77	○	障害者スポーツ論	障害者スポーツの概要と実際について学び、実技としてはレクリエーションを重視してとり組む。	1・後	15	1	△			○	○									
78	○	レクリエーション概論	レクリエーション活動を通してレクリエーションの意義・役割を学ぶ。（レクリエーションインストラクター資格取得可）	1・後	15	1	△			○	○									
79	○	レクリエーション実技Ⅱ		2・前	30	1	△			○	○									
合計					79	科目	160 単位（単位時間）													

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：規定単位習得		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：試験、レポート		1 学期の授業期間	18 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。